

特攻勇士に感謝と敬意を



昭和19年10月25日、最初の特攻攻撃を行った関大尉以下5名の神風特別攻撃隊敷島隊が飛び立ったフィリピンマバラカット東飛行場跡地に建つ特攻像



第153号

公益財団法人 特攻隊戦没者
慰霊顕彰会
編集人 金子敬志

印刷所 株式会社 SGネクスト
ホールディングス

目次

謹賀新年	2
新年のご挨拶	3
新年のご挨拶	4
新年のご挨拶	5
新年のご挨拶	6
新年のご挨拶	7
終戦80周年を迎えて	8
終戦80周年に寄せて想う事	9
令和7年度慰霊行事予定	10
(特攻隊戦没者慰霊顕彰会)	11
(靖国神社宮司大塚海男)	12
(参議院議員佐藤正久)	13
(世田谷区長保坂展人)	14
(株) 株式会社タダノ最高顧問多田野弘	15

謹 賀 新 年

公益社団法人 隊友会		会 長	折 木 良 一
理 事 長		岩 崎 茂	
常務理事		德 地 秀 士	
常務理事		岩 田 清 文	
常務理事		山 村 浩	
(総務担当)			
事務局長		藤 井 貞 文	
公益財団法人 陸修偕行社			
会 長		森 勉	
相 談 役		熊 谷 猛	
理 事 長		火 箱 芳 文	
副 理 事 長		岩 田 清 文	
専務理事		内 田 益 次 郎	
事務局長		本 庄 俊 弘	
公益財団法人 水交会			
会 長		杉 本 正 彦	
副 会 長		佐 賀 幾 雄	
理 事 長		河 野 克 俊	
専務理事		村 川 豊	
事務局長		徳 丸 伸 一	
航空自衛隊退職者団体			
会 長		つ ば さ 会	
副 会 長		杉 山 良 行	
副 会 長		丸 茂 吉 成	
副 会 長		片 山 隆 仁	
副 会 長		藤 田 信 之	
副 会 長		谷 井 修 平	
副 会 長		福 永 充 史	
専務理事		荒 木 文 博	
公益財団法人			
大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会			
会 長		安 倍 昭 恵	
理 事 長		山 下 輝 男	
専務理事		伊 藤 隆	
常務理事		國 澤 輝 生	
東郷神社			
宮 司		福 田 勉	
東郷会			
会 長		伊 藤 康 成	
副 会 長			
兼 理 事 長		永 田 美 喜 夫	
編 集 長		伊 藤 和 雄	
事務局長		足 立 晴 夫	
一般社団法人日本郷友連盟			
会 長		森 勉	
副 会 長		廣 瀬 清 一	
専務理事		越 智 通 隆	
常務理事		富 田 稔	
理 事 長		袴 田 忠 夫	
理 事 長		佐 藤 誠 喜	
公益財団法人 特攻隊戦没者慰霊顕彰会			
会 長		藤 田 幸 生	
理 事 長		岩 崎 茂	
副 理 事 長		岡 部 俊 哉	
専務理事兼			
事務局長		石 井 光 政	
理 事 長		臼 田 智 子	
鮎 田 英 一			
大 穂 園 井			
久 納 雄 二			
福 江 広 明			
阿 部 軍 喜			
羽 瀧 徹 也			

新年のご挨拶

公益財団法人
特攻隊戦没者慰霊顕彰会

理事長 岩崎 茂

いつも特攻隊戦没者慰霊顕彰会（以下「特攻隊慰霊顕彰会」）の機関紙である「会報 特攻」をご愛読いただいております皆様、また我々特攻隊慰霊顕彰会にご支援・ご理解を頂いております皆様、心新たに令和7年の新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

今年、令和7年は、大東亜戦争終結後80年の節目の年です。その戦いで亡くなられたご英霊のご加護もあり、今年も平

和で穏やかな新年を迎えることが出来ました。改めて感謝申し上げます。

昨年は、当会にとりましては80年の節目の年でした。昭和19年（1944年）10月25日、マバラカット西飛行場を飛びあがった関大尉率いる敷島隊が敵艦を発見し、最初の特攻作戦が成功しました。これまでは、現地で少人数ではありませんでしたがこの当日に慰霊祭を行って参りましたが、昨年は、フィリッピン政府及び軍、そして政府関係団体等、そして在フィリッピン日本大使館のご支援を頂き、200名を超えるご臨席を仰ぎ、盛大な慰霊祭を執り行うことが出来ました。現地での慰霊行事には、まだまだいろいろな問題がありますが、当会恒例の3月末の靖国神社での慰霊祭、9月秋分の日に執り行われております世田谷山観音寺の年次法要と合わせて、フィリッピン・マバラカットでの慰霊祭にも、これまで以上の努力を傾注しようと考えております。何卒、ご理解賜ります様お願い申し上げます。

我が国では、これまで比較的平和な日々が続いておりますが、世界を見渡せば、多くの市民の期待を裏切るような事態が引き起つており、その終息に目途が立っておりません。現状の世界的相互依存状

況等を勘案すれば、我が国だけが安穏とは出来ません。ましてや昨今、声高に叫ばれている台湾海峡有事を考えれば、我が国も覚悟を持って準備する必要があると思います。また、一国で国を守ることが出来難くなっていることから、同盟国との関係の深化・進化のみならず、同志国、パートナー国を多く作っておくことも大切だと思います。この様な準備をしておくことが、抑止に繋がると信じてやみません。

最後になりますが、本年の皆様方の益々

のご健勝とご活躍をご祈念申し上げますとともに在天の御英霊の安寧をお祈り申し上げます。



新年のご挨拶



参議院議員 佐藤正久

新年あけましておめでとうございます。旧年中は貴会の皆様到大変お世話になり、議員活動を行う上で大きな励みとなりました。本年も引き続きよろしくお願い申し上げます。

また、戦没された特攻隊員の慰霊と顕彰に尽力されている皆様に、心から敬意と感謝を申し上げます。

昨年2024年は、旧日本海軍の神風特別攻撃隊がフリピンをめぐる「捷一号」作戦で初出撃してから80年の節目の年でした。そして今年2025年は、硫黄島の激戦、さらには激烈な特攻作戦である「菊水」作戦が10回に渡って展開

された沖縄戦から80年の節目の年であります。

1944年の特攻作戦開始当初こそは予期せぬ体当たり攻撃に戸惑った米軍に大きな損害を与えましたが、戦訓をもとに対策を講じた米軍を相手にした1945年の沖縄戦では、日本陸海軍特攻隊はその戦果に比して甚大な損害を被る事態となりました。その様な状況下、特攻作戦を主導した大西瀧治郎海軍中将自らが「統率の外道」と呼んだ作戦命令に従い、戦場で散華された特攻隊員の方々の姿は、ただただ健気という他はありません。

特に、戦局が悪化する中で練度不十分ながら第一線への出撃を強いられた若手特攻隊員達を書き残した手記には、迫りくる死に対する彼らの苦悩や葛藤、残される家族への思い等が連綿と綴られ、胸にぐつと迫るものがあります。

また、航空部隊指揮官の中には、特攻作戦を「この槍、使い難し」と断じ、出撃に際しては楠木正成公の故事を引用して「湊川だよ」（「戦果を上げ得ずに全滅するのは必至」と言い残し、散華された方もおられます。佐藤も自衛隊で部隊指揮官を務めた経験がありますので、部下をむざむざと死地に赴かせる無念さによく理解できます。

一方の米軍も、特攻作戦で多大な損害を被りました。人員、艦艇等の物的損害はもちろんですが、戦闘神経症等の精神疾患を発症して後送された将兵も相当な数にのぼったと聞いております。特攻作戦は、米軍将兵の心に大きな傷を残したのです。

戦争は、敵味方を問わずに大きな物的・心的傷跡を残す残酷なものです。我々日本国民は、特攻隊に代表されるような悲壮かつ尊い犠牲が礎となって戦後日本の復興が果たされたことを決して忘れてはなりませんし、戦争の惨禍を繰り返してはなりません。

しかし、現在の国際社会は、ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルによるガザへの侵攻とイランへの攻撃、中国による覇権主義的行動、北朝鮮による核・ミサイル開発およびウクライナ戦線への派兵等、その緊張の度合いを高める一方です。

外交・安全保障を専門とする政治家として、国民の生命と財産、国の独立と平和を守るために国政の場でその責務を全力で果たすことをお誓い申し上げます。また、英霊の御霊の安らかならんことをお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

「終戦80年を迎えて」



靖國神社 宮司 大塚 海男

「米英は東アジアの平和を攪乱する中華民国を助長し我が国の生存に重大な脅威を与えている。我が国の存続が危険な状態に瀕しているので、自存自衛のため立ち上り障害を粉碎し、東アジアの永遠の平和を確立し我が国の光栄を保全する。」これが大東亜戦争における宣戦の詔書の主旨である。私はこの大義の是非を述べる立場にはない。ただ、当時の日本人が、この大義の下に平和を求めて戦ったことは事実である。

平和を創り出し、維持するためには、多くの時間とコスト、そして時に流血をとめない、尋常でない労苦を強いられることは歴史が明らかにしている。私が大使を務めたジブチというアフリカの国

は、紛争の絶えない大国に囲まれる中で、叡智を絞り出し、文字通り血のにじむ努力により平和を維持していた。

我が国は、戦後の80年間に加え江戸時代には260年、平安時代には400年にわたり平和な時代を享受してきた。縄文時代の日本列島では、千年単位で平和な「文明」が続いていたことも考古学が証明している。日本は、世界的に「比類なき平和な国」なのである。巷間、日本人は平和「ボケ」していると言われるが、「ボケ」ているのではなく、日本人の平和観が世界の常識と「ズレ」ているのだ。最新の世界価値観調査での「もし戦争が起これたら国の為に戦うか」との問いに対する日本の回答は、77か国中で最下位の13・2%という驚くべき結果だった。他方、昨年のパリ五輪の若いメダリストが、「特攻資料館に行き、現代に当たり前にできることが必ずしも当たり前のことではないことを感じたい」と発言し脚光を浴びた。これが本来の日本人がもつ感性なのだろう。そしてその感性が、困難に直面したときに不屈の底力を発揮させるのが日本という国なのだろう。

靖國神社には、掛け替えのない自らの命を特攻に捧げられた六千余柱の英霊が

御祭神としてお祀りされている。英霊の思いを付度するのは畏れ多いが、御遺書を拝読すると、目の前の危機から家族、友人、故郷、祖国を護ろうとしたことは言うに及ばず、子々孫々の世代が平和裏に暮らせるよう願って出撃されたことが分かる。

特攻の成果としては、単に敵兵力の物理的撃破に止まらず、戦勝国に対して日本への畏怖の念を与え、終戦後の占領政策から今日に至る、特に米国との関係に少なからぬ影響を与えたことが挙げられる。一昨年、米軍ジブチ基地でのミッドウェー海戦80周年記念式典において、大使の立場で、「日米の強靱な同盟関係は、大東亜戦争にて散華した幾多の英霊の敢闘があつてこそのも」と話した際に、米軍人から満場の賛意を得たことが思い出される。

後世の平和を願って散華された特攻隊員の思いは、我々が享受する今日の日本の平和に体现されている。平和の裡に終戦80年を迎える我々は、英霊に対する感謝に止まらず、その御心を汲む努力を絶やすことなく、未来の日本へ平和の絆を繋ぐ誓いを新たにして参りたい。

「新年のご挨拶」



東京都世田谷区長 保坂 展人

新年明けましておめでとうございます。皆様には、令和7年の新春を健やかに迎えられたこととお喜び申し上げます。

昨年の夏は、猛烈な暑さや台風など、自然災害の脅威を感じる日々が続きました。かつての戦争を振り返るテレビ番組で戦場での経験を語る人々は、いずれも90代後半から100歳を超えた高齢となりました。また多感な少年少女だった頃に、空襲の焼夷弾や機銃掃射で逃げまどい、あるいは疎開の経験がある方も80代後半から90代半ばとなりました。

昨年6月25日に、世田谷区立二子玉川小学校の小学生たちを前に、長野県中川村に伝わる人形浄瑠璃の「里帰り公演」がありました。戦争が激しくなった昭和

20年5月、当時の二子玉川国民学校の児童と、その付添い者81名が、中川村に疎開をしています。戦争が終わり子どもたちも11月に帰りましたが、「疎開中にお世話になった」という御礼の気持ちとして、当時の保護者の方から人形7体が疎開先の中川村に寄贈されました。

娯楽の限られていた信州の山間の村で、住民に親しまれてきた人形浄瑠璃でしたが、テレビが入ってきた昭和37年頃に途絶えて、長らく歴史民俗資料館に保存されてきました。今から12年前、「人形浄瑠璃を50年ぶりに復活させよう」という気運が高まり、当時の曾我逸郎中川村村長をはじめ関係者が世田谷区役所を訪ねてくれました。

中川村の曾我村長は、「世田谷からの人形とだけ伝えられているのですが、いったい誰だったかを知りたいのですが」と質問され、私は咄嗟に故鈴木昌二元区議会議員に電話をかけました。彼は、二子玉川郷土史会会長で地元の二子玉川小学校出身で、贈呈者を即座に調べてくれました。これを機会にして、二子玉川と中川村の交流が始まり、今年の6月は「里帰り公演」となりました。

この交流を通して、中川村に記念碑が建てられ、また、事の経過をまとめる記念冊子も発行されています。今回の交流

も疎開の経験のある高齢者となった卒業生と今の小学生たちが同じ場で公演を観ることができました。歴史を刻み、次世代に「疎開」と「戦争」を伝えるいい機会となりました。

この夏に私は、『爆弾になったひいじいちゃん』という絵本を手にしました。「おばあちゃん、ぼくのひいじいちゃん、どんな人？戦争にいったのよ。かごしまの ちゃんって 場所から 特攻機にのって」の書き出しから始まるこの絵本には、戦争を知らない子どもたちへ、いまの時代だからこそ、伝えたい思いが記されています。

「特攻隊は 17歳から32歳948人がなくなったわ 17歳って高校2年生ぐらいよ えっ？ 何のために命をかけたの？」

人によって違うけど自分の大切な人や日本を守ろうと考えた人が多かったのよ」そして絵本では、特攻隊員となった若者の残した言葉を紹介していきます。絵本の制作は、のぶみさん（斎藤信実）の作によるもので、ホテル館富屋食堂の鳥濱拳太さんが取材に協力されています。すでに、戦争を知らない世代が多数となる社会の中で、幼い子どもたちに歴史を語り継いでいくことの大切さを思います。私もまた、戦後世代です。ただし、親や祖父母から戦争体験を聞き、特攻隊員

の一員として生き延びた方の経験談を少なからぬ時間、聞き続けてきた世代です。すでに、私に昨日のここのように当時の苛酷な状況を語り聞かせてくれた先輩の多くが旅立っています。

終戦80周年に寄せて想う事

株式会社タダノ最高顧問

多田野 弘

かつて私が過ごした、3年間の戦場における生き様とは毎日が「命を見つめて生きる」ことそのものと言ってよいだろう。数え切れぬほど死ぬ目に遭った。

その戦場とは、太平洋戦争で日米両国が最も激しく戦った、ラバウル・サイパン島・ペリリュー島・フィリピンである。その間に戦った日本の将兵は、おそらく何十万人もいただろうが、今生き残っているのは、104歳の私一人ではないだろうか。特に、命の最期を覚悟した三つの出来事は、80年後の今でも、昨日の事のように脳裏に焼き付いている。

最初に赴任したラバウル基地には、毎日、100機に余る戦爆連合の空襲があった。満を持していた我が3戦闘機隊200機余のゼロ戦が一斉に飛び上がり、迎撃・撃退していた。その壮烈な戦いぶりに、私は心を奪われ、戦いに参加しているのを誇りにすら感じていた。

しかし、邀撃のたびに米機撃墜の戦果

わが国は戦後70年以上に渡り世界中のどの国とも1度も戦火を交えることなく、平和の歴史を積み重ねてまいりました。遠ざかる歴史の中で、その教訓を後世に伝えてきた皆様をはじめ、先人のご努力

はあったものの、我が方にも同程度の未帰還機を出していた。さらに、米軍の爆撃機が落とす爆弾によって、私たち地上員にも死傷者が出た。空襲後、担架上の変り果てた彼らを見送ったが、なぜか悲しむ気になれなかった。明日は我が身かもしれないと命の儚さを改めて思い知った。

命の最期を覚悟した一つ目の出来事。やがて、我が201航空隊は全員サイパン基地へ後退が決まった。地上員250名余は2隻の貨物船にて移動である。船は予定通り出航したが、コンソリー爆撃機一機が飛来、鳥が糞をするように爆弾投下してきた。並行していた僚船羽黒丸が直撃を受け、舳先を上にして沈んでいった。我が海河丸は、至近弾による海水を浴びただけだった。

運よく難を免れたが、翌日の同じ頃、私は甲板上にたたきつけられた。魚雷だ！2発目の魚雷必至とみた私は何も考えず、舷側に走り寄って海に飛び込んだ。行くも死、留まるも死だった。うねりの波に

あつてのことと存じます。平和の大切さを、皆様とともに次の世代にしっかりと伝えてまいりたいと思います。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

揺られ漂流しながら、思い出が次々と、走馬灯のように頭の中を巡っていった。溺死でも戦死と扱ってくれるだろうか。戦死と聞いて、父は褒めてくれるだろうか、母は悲しむだろうか等が浮かんできた。

やがて、駆逐艦に救助されサイパン島に向かったが、私にとつて忘れられない日となった。救助された中に、ひざ関節を撃ち抜かれた重傷の若い兵士がいた。他の12・3名の同僚が彼を介護しながら「サイパンには海軍病院がある。頑張れ」と励ましていた。皆が軍歌を歌い出すと、彼も同調して歌い出した。しかし、皆、疲れていた。軍歌の勢いは次第に衰え、いつしか眠っていた。ふとみると、彼は既に事切れていた。私は胸がいっぱいになった。私より2・3歳若い兵士は、死に瀕する重傷を負いながら、死ぬまで「痛い！」と一言も言わずに死んだのである。以来私は、いかなる苦痛があろうとも「苦しい、痛い」は絶対に言うまいと肝に銘じた。

命の最期を覚悟した二つ目の出来事。サイパン基地にいた私に、突然出動を命じられた。2月18・19日、米機動部隊に急襲され全滅したトラック諸島の救援に翌20日、我が201空全機の出動となった。

トラック諸島全滅の翌日である。米機動部隊がまだ近くにいるかもしれない。もし米機と遭遇すれば、私が乗った鈍足の1式陸攻は、真つ先に餌食にされるのが目に見えていた。機は、トラック諸島近くまで来たが、米機はいなかった。着陸予定の竹島は、見ると滑走路が穴だらけだ。上空で旋回している間に大勢が土で埋めてくれ、着陸した。ところがサイパンが今、米機の一方的攻撃を受けているという。なんと我が戦闘機隊と入れ違いになったのだ。

三つ目の出来事。サイパンからペリリュー島に移動した後、3月30日、米機動部隊が来襲、我が戦闘機隊は邀撃したが全機未帰還になった。戦死（基地隊員含む）246名、ゼロ戦32機を失う。夕方、グアム、サイパンの両基地から応援にきた52機も、翌日、全機南溟に散った。夜、総員集合がかかり、中野司令中佐が壇上から「防衛力を失ったこの島は、米軍の敵前上陸の公算大である。我が隊は最後の一兵まで戦う、全員奮励努力せよ」と

宣言された。両島は、日を経ずして敵前上陸され、玉砕した。

だが、その玉砕した中に私はいなかった。そのわけは、4月7日、ペリリューにいた私に、失ったゼロ戦補給のため、内地出張を命ぜられたのである。近くのパラオにいた2式大艇に便乗、8時間後「日本に着いたぞ」の声に下を見ると、房総半島の上空である。見ると西岸には、桜が咲いている。突然涙が込み上げてきた。生きて二度と見ることはないと思っていた祖国を見て、滂沱の涙したのであった。横浜に着水し、中島飛行機製作所でゼロ戦32機を受領、沖縄・台湾経由、フィリピン・セブ基地に空輸の重任を果たした。

私は内地へ出張のおかげで、再び難を免れた。やはり私は運がよかった。同時にそれは魂の導きであったことを認めずにはいられない。

戦場の3年間は、極限の中で命を見つめて生きたと言える。その中で一番大きな収穫は、自分が魂の存在であるのを知ったことである。以来、私の考え方・生き方が、魂主導に一変した。言いかえると、苦しみが大きいほど、乗り越えた喜びが大であることを悟り、克己の生活が始まったのである。

今年、終戦後80年。この間ずっと、生

かされた命に感謝し、困難に立ち向かった克己の日々は、私をこの上ない幸せ者にくれた。その天恩に感謝してやまない。



令和7年度慰霊行事予定(当顕彰会主催及び他団体主催慰霊祭参加予定)

(慰霊行事名)

1 神雷部隊慰霊祭

(期日・場所)

3・21(祝) 建長寺「神雷戦士の碑」

(主催者名等)

湘南水交会

2 宮崎県特攻勇士の像慰霊祭

3・28(金) 宮崎縣護國神社

宮崎縣護國神社

3 第46回特攻隊全戦没者慰霊祭

3・29(土) 靖國神社

(公財) 特攻隊戦没者慰霊顕彰会

4 旧鹿屋航空基地特攻隊戦没者追悼式

4・5(土) 小塚公園内慰霊碑

鹿屋市

5 都城市特別攻撃隊戦没者慰霊祭

4・6(日) 都島公園慰霊碑

都城市特別攻撃隊戦没者奉賛会

6 宮崎特攻基地慰霊祭

4・6(日) 宮崎特攻基地慰霊碑

宮崎特攻基地慰霊祭実行委員会

7 戦艦大和追悼式

4・7(月) 呉市長迫公園

戦艦大和会

8 徳之島慰霊祭

4・7(月) 犬多布岬慰霊塔

伊仙町慰霊祭実行委員会

(戦艦大和を旗艦とする第二艦隊戦没者)
9 萬世特攻慰霊碑慰霊祭

4・13(日) 萬世特攻慰霊碑

南さつま市・萬世慰霊碑奉賛会

10 出水市特攻碑慰霊祭

4・16(水) 特攻碑公園慰霊碑

出水市特攻慰霊碑顕彰会

11 國分基地特攻隊員戦没者慰霊祭

4・20(日) 特攻碑公園内特攻機発進の地

霧島市

12 靖國神社春季例大祭(当日祭)

4・22(火) 靖國神社

靖國神社

13 沖縄県特攻勇士の像慰霊祭

4・23(水) 沖縄県護国神社

沖縄県護国神社

14 秋田県特別攻撃隊招魂祭

4・29(祝) 秋田市総社神社

招魂祭実行委員会

15 能代特攻慰霊祭

4・30(火) 能代鎮守八幡神社

東雲飛行場戦没者慰霊顕彰会

16 知覧特攻基地戦没者慰霊祭

5・3(祝) 知覧特攻平和観音堂

南九州市・知覧特攻慰霊顕彰会

17 福岡県特攻勇士の像慰霊祭

5・10 (土) 福岡縣護国神社

福岡県特攻勇士慰霊顕彰会

18 特攻殉国の碑慰霊祭

5・11 (日) 特攻殉国の碑

川棚町新谷郷殉国の碑保存会

19 京都靈山護國神社特攻勇士の像慰霊祭

5・24 (土) 京都靈山護國神社

関西白鷗遺族会

20 筑波海軍航空隊慰霊の集い

5・24 (土) 県立こころの医療センター

筑波海軍航空隊友の会

21 三重海軍航空隊「若櫻の碑」慰霊祭

5・25 (日) 若櫻の碑霊園

香良洲神社

22 義烈空挺慰霊祭 (健軍)

5・25 (日) 陸自健軍駐屯地

全日本空挺同志会熊本支部

23 豫科練戦没者慰霊祭

5・25 (日) 陸自武器学校豫科練之碑

海原会

24 千葉県特攻勇士の像慰霊祭

5・26 (月) 千葉県護國神社

千葉県護國神社

25 指宿海軍航空基地哀惜の碑慰霊追悼式

5・27 (火) 指宿海軍航空基地哀惜の碑

指宿海軍航空基地哀惜の碑顕彰会

26 大東亜戦争全戦没者合同慰霊祭

7・5 (土) 靖國神社

(公財) 大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会

27 三重県特攻勇士の像慰霊祭

8・8 (金) 三重縣護國神社

英霊にこたえる会三重県本部

28 国分第二基地十三塚原特攻隊慰霊祭

8・15 (金) 十三塚原海軍特攻碑

霧島高原ビル (株)

29 全国戦没者慰霊大祭

8・15 (金) 靖國神社

英霊にこたえる会

30 戦歿学徒慰霊祭

8・31 (日) 広島護國神社

戦歿学徒慰霊祭実行委員会

31 楠公回天祭

9・7 (日) 信貴山山王坊

回天楠公社奉賛会

32 第74回特攻平和観音年次法要

9・23 (祝) 世田谷山観音寺特攻観音堂

世田谷山観音寺 (公財) 特攻隊戦没者慰霊顕彰会

33 鉾田陸軍飛行学校慰霊祭

10・5 (日) 鉾田陸軍飛行学校跡

鉾田陸軍飛行学校顕彰碑奉賛会

34 長野県特攻勇士之像慰霊祭	10・10 (金)	長野縣護國神社	長野縣護國神社
35 旧海軍航空隊串良基地出撃戦没者追悼式	10・11 (土)	串良平和公園慰霊塔前	鹿屋市
36 茨城県特攻勇士の像慰霊祭	10・12 (日)	茨城県護國神社	茨城県特攻戦没者慰霊顕彰会
37 靖國神社秋季例大祭 (当日祭)	10・18 (土)	靖國神社	靖國神社
38 千鳥ヶ淵戦没者墓苑秋季例大祭	10・18 (土)	千鳥ヶ淵戦没者墓苑	千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会
39 明野忠魂塔慰霊祭	10・18 (土)	陸自航空学校・明野忠魂塔前	明野忠魂塔顕彰会
40 長崎県特攻勇士の像慰霊祭	10・22 (水)	長崎縣護國神社	長崎縣護國神社
41 神風特別攻撃隊戦没者慰霊祭	10・25 (土)	西条市檜本神社	神風特別攻撃隊五軍神 特攻戦没者奉賛会
42 神風特攻隊慰霊碑参拝	10・25 (土)	比島マバラカット	(公財) 特攻隊戦没者慰霊顕彰会
43 大阪特攻勇士之像慰霊祭	10・25 (土)	大阪護國神社	大阪特攻勇士之像慰霊顕彰会
44 高知県特攻勇士の像慰霊祭	10・25 (土)	高知縣護國神社	高知県特攻戦没者慰霊顕彰会
45 埼玉県特攻勇士之像慰霊祭	10・31 (金)	埼玉縣護國神社	埼玉県特攻隊慰霊祭斎行委員会
46 回天烈士並びに回天搭載戦没潜水艦乗員 追悼式	11・9 (日)	大津島・回天慰霊碑前	周南市大津島回天顕彰会
47 若潮慰霊祭	11・23 (祝)	小豆島富丘八幡神社	若潮の塔奉賛会
48 九軍神慰霊祭	12・8 (月)	愛媛県伊方町三机	

(日時等詳細は顕彰会事務局又は主催団体等にお問い合わせ下さい。)

